

市長の令和3年度施政方針に対し 各会派から代表質問

令和3年度の施政方針演説
生み育てる喜びが感じられる
子育て支援と人づくり

上村 崇 市長



まず、コロナ禍のなか、市民生活をしっかり支えるため、迅速に市民がワクチンを接種できる体制を構築するとともに、中小事業者への支援など、地域社会や経済への対策に取組みます。

その上で、「第4次総合計画 まちづくりプラン」を着実に推進し、中学校給食の早期実現など、「生み育てる喜びが感じられる子育て支援と人づくり」をはじめとする5つの重点プロジェクトを創造し、世代を超え、「みんなが住み続けたいと思えるまち」を目指します。緊急事態宣言に伴い、外出抑制やイベントの中止・縮小されたことで、社会的な「つながり」が希薄化する一方、それを補完するため、デジタル技術を活用した交流や情報共有にシフトしてきました。

今後、ウィズコロナ社会を乗り越えるためには、社会的な「つながり」を再確認し、協力し合い、「しなやかさ」を持って、柔軟に対応していくことが求められます。

このことから、市民と情報を共有する効果的な広報広聴やデジタル化による市民サービスの向上を推進するとともに、多様な主体との連携と、これらを支える人材を育成すること、ウィズコロナ、ポストコロナという社会的的確

に対応していきます。

まず、広報紙のリニューアルを行うとともに、LINE公式アカウントの運用により、市民一人ひとりのニーズに合わせた情報をファッション型でお知らせする機能やアンケート機能を活用することで、情報発信と広聴機能を強化します。また、地域力を高め「しなやかな地域づくり」を進めるため、区・自治会とともに連携して、「まちづくり協議会」の立ち上げに向けた意識醸成を進め、南部地域でのコミュニティや文化活動などの拠点機能の確保を進めます。

大学連携では、「大学連携ディスカバリーベース」を設置し、市内をフィールドとした研究活動を行うほか、新たに「京都府立大学（京都地域未来創造センター）」に職員を派遣することで、政策課題などの研究を通じた人材育成に取組みます。

さらに、市役所がまちづくりをしっかりとリードできるよう「人材育成基本方針」の改訂やテレワークの導入など、働き方改革につながる取り組みを推進します。

そして、魅力と活気にあふれるイベントを通じて、まちづくりの主役である市民に「つながり」を取り戻すことで、地域力を高めてまいります。

5つのキーワードと 主要な施策



京田辺市

KYOTANABE CITY ◀便利でええやん!京田辺▶

キーワード「安全・安心」

～安全で心安らぐ優しいまち～

市営住宅長寿命化事業：1億5680万円

通学路安全対策事業：6600万円

防災施設整備事業：1189万円 など

キーワード「緑」

～緑に包まれた美しいまち～

可燃ごみ広域処理施設敷地粗造成事業：4億1900万円

田辺公園野球場LED化等改修事業：3260万円

森林状況調査事業：787万円 など

キーワード「健康」

～いきいき健康で明るいまち～

新型コロナウイルス感染症

予防接種事業：2億287万円

水辺の散策路環境整備事業：650万円

高齢者社会参加

促進事業：378万円 など

キーワード「田園都市」

～活力にみちた便利で快適なまち～

田辺大通線改修事業（バリアフリー）：5500万円

東地区農地乾田化事業：3300万円

北部地域道路調査検討事業：1500万円 など

キーワード「文化・教育」

～子育てしやすく未来を育む文化薫るまち～

（仮称）大住こども園等整備事業：1億2015万円

商業施設を活用した子育て支援拠点の整備事業：3367万円

放課後児童健全育成事業：707万円 など